

『文殊師利根本儀軌經』のパタについて

—第五章「中品」を中心として—

研究生 大塚 恵俊

『文殊師利根本儀軌經』は、種々の密教儀礼を実践するための儀則が雑集的に編纂された百科全書的特徴を有しており、全体としては初期密教經典としての位置づけがなされている。その中でも筆者は、マンダラと同様に本經において重要な位置を占める、パタ (pata) に関する密教儀礼を取り上げて研究を進めている。本經を始めとする初期密教經典所説のパタは、仏教固有のある主題が絵画的に表現される場合が多く、經典に描写される一場面を切り取ったような説法図としての特徴が顕著に確認される。本經のパタの先駆的研究は Lalou [1930] によってなされており、主要なパタの復元図が提示されている。しかしながら、近年の図像学の進展や新たな仏教美術の作例の発見により、これらの研究成果には再検討の余地のあることが指摘されている (Cf. 田中 [2010])。そこで筆者は、第四章(「上品」)所説のパタ(「最勝パタ」と称する)を扱った拙稿 [2013] に引き続き、第五章(「中品」)所説のパタ(「中位パタ」と称する)の特徴を整理し、本經のパタの体系的な研究の一助となることを目的とした。

そもそも章題によれば、第四章は prahama、第五章は diviya、第六章は tṛtīya、第七章は caturtha とやられてお

り、本經の第四章から第七章までは、パタを作成するための一連の儀則を説くセクションとして編纂されている。特に第四章から第六章所説の三種のパタが、第四章の儀則を中核とする同一の軌範に基づいて作成すべきことが示されていることは注目するべきであろう。また、これらの三種のパタが、その規模に準じて、大(第四章所説の最勝パタ)・中(第五章所説の中位パタ)・小(第六章所説の小位パタ)のセットで扱われていたことを示唆する記述も随所に確認できる。したがって第四章から第六章は、本經の原初形態より、まとまった形で保持されていたと考えられる。

このように、第五章の中位パタの作成儀則は、第四章の最勝パタの作成儀則を基盤とすることから、中位パタに描かれる画像は、必然的に最勝パタと類似している。たとえば、パタの基本構図が三尊形式である点、パタの下方に実在の行者を描く点、パタの画像全体にわたって山や海が広がる叙景的な表現である点など、中位パタには、最勝パタとの共通の特徴を多く確認できる。

そこで、中位パタの独自の特徴を浮き彫りにするために、尊格の配置を主な視座として、以下のような最勝パタとの相違点に注目した。①文殊の位置が、中尊釈迦牟尼を中心として左右逆になっている点。②最勝パタでは、文殊と弥勒が菩薩の上首であるのに対し、中位パタでは、文殊と観自在が菩薩の上首となっている点。③釈迦牟尼の左辺やや上方に描かれる八如来の中に、過去七仏として知られる如

来が描かれる点。④最勝パタでは描かれることのなかった天部の尊格が、中位パタでは多く描かれている点、以上の四点である。今回は特に③④の相違点を考察するために、仏伝文献として知られる『大本経』および『ラリタヴィスタラ』の記述に注目した。なぜならば、中位パタの八如来の中に含まれる *Sikhin*, *Visvabhuji*, *Krakucchanda*, *Kanakamuni*, *Kasyapa* という過去七仏は、上記の仏伝文献において、淨居天などの天衆と密接な関係にあるからである (Cf. 天野 [2010])。このような過去七仏と天衆との密接な関係を描く仏伝文献が、中位パタに描かれる尊格群に影響を与えたとすれば、中位パタ独自の特徴として③④の相違点を理解することができる。実際、拙稿 [2013] で指摘したように、最勝パタの基本構図は、仏伝文献の *Divyavadana* に描写される一場面に影響されていることが明らかである。したがって、最勝パタを中心とする一連のパタの根底には、仏教者たちに浸透していた仏伝文献の影響があり、今回取り上げた中位パタには、特に『大本経』および『ラリタヴィスタラ』の一節に描かれる過去七仏と天衆の関係が投影された可能性を指摘できる。

このような考察結果は、定金 [1994] によって提唱されている、仏伝文献などの仏教説話をモチーフとした「絵解き用パタ」から「礼拝用パタ」、さらには「修法用パタ」への発展という説を文献学の見地から支持する一つの根拠となるだろう。

〈参考文献〉

- Lalou [1930] *Marcelle Lalou, Iconographie des étoffes peintes (pata) dans le Mañjuśrīmūlakalpa, Paris.*
- 天野 [2010] 天野信「大本経における七仏の事蹟と淨居天の神」『印度学仏教学研究』vol.58-2, pp.189-194.
- 定金 [1994] 定金計次「インド仏教絵画の展開——壁画の変転と礼拝画の成立——」『仏教芸術』vol.214, pp.75-131.
- 田中 [2010] 田中公明「トンフトウンデンとは何か?——タンカの起源と『文殊師利根本儀軌経』——」『密教図像』vol.29, pp.1-9.
- 拙稿 [2013] 『文殊師利根本儀軌経』所説の最勝パタ成就法について』『密教学研究』vol.45, pp.31-49.